



相ノ木っ子だより

令和元年度
学校だより
11 月 号
上市町立相ノ木小学校

「わたしは大丈夫」は、大丈夫？



「おはようございます」

自然な挨拶を交わしながら、児童玄関に入っていく子供たち。朝晩肌寒くなってきましたが、子供たちは全員元気に登校しています。そんな様子をうれしい気持ちで見守りながら、ふとヘルメットの方に目をやると、多くの子のあごひもがあごよりずいぶん低い位置にあることに気付きました。また、あごひもを留めていない子も数人いました。低学年だと、ぶかぶかでしっかりと留めることは難しいかもしれませんが、それでもひもを調節してしっかりと頭を守り、自分の身の安全を確保すべきです。今のままでは、ちょっとした衝撃でもヘルメットがはずれてしまい、ヘルメット着用での登下校が無意味になってしまいます。そこで、担任の先生からヘルメットをしっかりとかぶることの大切さ、理由等を子供たちに説明し、あごひもの調節等を指導してもらいました。ご家庭でも、あごひもがきちんとあごを支えているか、確認と声掛けをよろしくお願いします。

子供たちにそんな安全への備えや心構えを身に付けてもらいたいと願っていると、今秋に連続して到来し、各地に多大な被害を及ぼした台風について思いを馳せてしまいます。突風によって無くなった屋根、あっという間に数メートルの高さまで到達した浸水、車ごと流される恐怖、家を跡形もなく流してしまった土砂災害等々。川から住宅地に勢いよく流れ込んでいる泥水や水に浸かった北陸新幹線車両等の映像に衝撃を受けましたし、下水道から川に排水できずに逆流する「内水氾濫」や水位の上がった本流に流れ込めずに支流が氾濫する「バックウォーター」といった現象も新たに知りました。亡くなられた方へのご冥福を祈るとともに、復旧までの多くの年数、被災者の方々のたいへんな生活にお悔やみを申し上げます。被災地に対して何かできることはあるでしょうし、被災地の現状を教訓とし、自らに省みて災害に備えることも報いる一つかもしれません。しかし、同じ日本に住みながらも、地震や風水害の被害があまりない富山県で暮らしていることの幸せを痛感するばかりで、「富山は大丈夫だろう」「災害への対策は何もしていない」と思うってしまう自分がいます。皆さんは、どうでしょうか？わたしと同様であるならば、大人ですらそうですから、子供たちはなおさらでしょう。

冒頭のヘルメットも、毎日かぶらなければいけないものですし、あごひもがゆるい方が着脱も楽です。そんな日常生活において、「わたしは大丈夫」という思いがどうしても起こってしまいます。でも、「わたしは大丈夫」は、本当に大丈夫なのでしょうか。災害、交通事故、不審者、熊等から自分の身を守るためには、「もしかしたら」という最悪の想定を常にしておくことが必要です。自分の想像力をフルに働かせ、自分でしっかりと判断し、きちんと行動していくことが重要です。わたしの判断、行動は、ほんとに大丈夫かと常に自問自答すべきなのです。そうすることで、普段何気なく生活していることが当たり前のことではないことや自分が生きていることを実感し、命あることへの感謝をきっともつことができるでしょう。

最後に、谷川俊太郎さんの「生きる」という詩です。

生きているということ いま生きているということ
それはのどがかわくということ 木もれ陽がまぶしいということ
ふっと或るメロディを思い出すということ くしゃみをする
あなたと手をつなぐこと



生きているということ いま生きているということ
見上げた空がまぶしいこと いつもの通学路を友達と並んで歩くこと
新しいノートを開くこと

昨日嫌いだった友達が、今日少し好きになれたこと
生きているということ いま生きているということ
叱られてくやしいこと 認められてうれしいこと
誰かのためになれたこと
明日が楽しみであり、不安でもあること



相ノ木っ子のみんな、自分の「行動」を振り返り、自分の「生きる」を見つめてみよう！

人の心がわかる心

「42万5844件」

10月17日に文部科学省が発表したある数値です。いったい何の件数だと思われますか？これは、昨年度の小学校におけるいじめの認知件数です。いじめの認知件数は、年々増え続けており、小学校では前年度より約11万件も増えました。ここ数年で膨大に件数が増えた要因として、いじめによる重大事態への対応として平成25年度に『いじめ防止対策推進法』が制定されたことが挙げられます。「いじり」「からかい」等の兆候が見られたら積極的にいじめと認知するようになったことが、大きいと言えます。とは言え、件数の多さ、増加の度合いは、とても憂慮しなければなりません。そしてまた、わたしたちからよく見えないいじめもあります。ゲームやSNSを通じてのものだったり、集団による雰囲気のようなものだったり、大人の目が届きにくい所で起きているのも現状です。

いじめは決して許されないことであり、「いじめをなくす」「いじめのない学校にする」は、学校の大きな使命であります。しかし、昔からいじめはありましたし、大人の社会でもあります。神戸市の小学校教員たちによる同僚へのいじめ。同じ教職に就く者として、たいへん恥ずかしいです。それでも、優位性、集団心理、ストレスのはけ口…。いじめをなくすことは容易なことではありません。

作家の山崎朋子さんは、「わたしがわたしになるために」で次のように言っています。

大人とは、自分が在るのと同じように別の人間も在るということ、
生活のレベルで認めることができる人のことであり、
子供とは、その自他のけじめが未だ分からない、
ある意味で自分本位な人である。



大人と違い、元来自分本位である子供たちは、より優位に立とうとしがちです。自分の正当性を主張するあまりに、自分ではそのつもりがないのに、相手を傷つけるような言動をとってしまいます。そこには、相手の心を気遣う余裕がありません。やはり、自分の心を大切に考えることが重要であり、それと同様に相手の心を考えていくよう教え導いていかなければなりません。

教養はものを識ることとは関係がない。

やっぱり人の心がわかる心というしかない。

それが日本風の教養の定義であろう。



医学博士の養老孟司さんは、著書「まともな人」でこう言っています。また、コロンビア大学の総長を務めたニコラス・バトラー氏も次のように言っています。

自分のことだけしか考えない人間は教養のない人間である。

たとえ、どれほど教育を受けても、教養が身につかない人間である。

相手がどう思うか、どう感じるかを考えようとしなない人は、教養をきちんと積んでこなかったということになります。万国共通の、当たり前で大切な教養である「人の心がわかる心」。学力をきちんと定着させていくことはもちろんですが、学校という集団生活の中で、子供たちに心ある教養をきちんと身に付けさせていくことがたいへん重要だと思います。そういった支援、教養を大切にしていくことで、子供たちは、きっと自分本位から他者理解や相手への気遣いへと大きく成長していくことでしょう。いじめを防ぐ、いじめに強い相ノ木小学校でありたいと考えます。



行事予定 (11月中旬～12月中旬)



11月19日(火)	就学時健診	11月26日(火)	ミニ駅伝大会
	下校 1・2・3・4・6年 12:20	28日(木)	居住地校交流(2年)
	5年 15:00	29日(金)	避難訓練(不審者対応)
20日(水)	町音楽会(4年)	12月10日(火)	健康運動能力向上支援事業
21日(木)	健康運動能力向上支援事業		(1・2年)
	(1・2年)	11日(水)	保護者懇談会① 下校 13:00
22日(金)	相ノ木保育園訪問(5年)	12日(木)	いのちの教室(5年)
25日(月)	ノーメディア・スタジオイーク(～11/29)		保護者懇談会② 下校 13:00
		13日(金)	保護者懇談会③ 下校 13:00